記者発表

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

いのちとくらしをまもる
防　災　減　災

令和３年４月２７日
東北地方整備局

防災・減災、国土強靭化に向けた道路の5か年対策プログラム（東北ブロック版）を策定

～今後5か年の目標を示し、取り組みを重点的かつ集中的に実施～

１．概要

近年の激甚化・頻発化する災害からの迅速な復旧等のために、発災後概ね１日以内に緊急車両の交通を確保することを中長期的な目標として定め、道路ネットワークの防災上の課題箇所を点検した上で、災害に強い国土幹線道路ネットワークの選定を行いました。

中長期目標の達成に向けて、高規格道路のミッシングリンクの解消及び暫定２車線区間の４車線化、直轄国道等の防災課題解消によるダブルネットワークの強化等を推進し、災害に強い国土幹線道路ネットワークを構築します。

具体的には、「防災・減災、国土強靭化のための５か年加速化対策」（令和2年12月11日閣議決定）に位置づけられた目標や事業規模等を踏まえ、防災・減災、国土強靭化に向けた道路の５か年対策プログラム（東北ブロック版）を策定しました。

また、本プログラムにおいて、東北ブロックでは、新たに２事業の開通見通しを公表（うち１事業は開通時期見直し）いたします。

２．添付資料

・防災・減災、国土強靭化に向けた道路の５か年対策プログラム【別紙１】

・東北地方整備局の道路事業の開通見通し【別紙２】

発表記者会：東北電力記者会／東北専門記者会／青森県政記者会／岩手県政記者クラブ
宮城県政記者会／秋田県政記者会／山形県政記者クラブ／福島県政記者クラブ

＜問い合わせ先＞
国土交通省　東北地方整備局　TEL（022）-225-2171（代）
道路部　道路計画第一課　課長　柏（かしわ）　宏樹（ひろき）（内線4211）

別紙1

防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム

令和３年４月
東北地方整備局

１．プログラムについて

近年、気候変動の影響により気象災害が激甚化・頻発化し、大規模地震の発生も切迫している。また、高度成長期以降に集中的に整備された多くのインフラの老朽化が見込まれることから、それらの維持管理・更新を確実に実施する必要があるが、適切に対応しなければ、中長期的なトータルコストの増大を招くのみならず、我が国の行政・社会経済システムが機能不全に陥る懸念がある。

こうした状況を踏まえ、政府は防災・減災、国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図るため、令和３年度から令和７年度までの５年間で、追加的に必要となる事業規模を政府全体でおおむね 15 兆円程度を目途として、重点的かつ集中的に講ずる対策を定めた「防災・減災、国土強靱化のための５か年加速化対策」（以降、「５か年加速化対策」）を令和２年 12 月 11 日に閣議決定した。

道路事業においては、「５か年加速化対策」に位置づけられた目標や事業規模等を踏まえ、各都道府県における５か年の具体的な事業進捗見込み等を示し、計画的な事業執行に取り組むとともに、周辺の開発事業等との連携を図りながら、対策の効果をより一層高めることを目的として、本プログラムを策定するものである。

２．対策概要

令和２年 11 月には、社会資本整備審議会道路分科会東北地方小委員会の意見を踏まえ、高規格道路※と直轄国道を組み合わせた災害に強い国土幹線道路ネットワークを選定するとともに、防災上の課題箇所を把握したところである。

※高規格幹線道路、地域高規格道路（計画路線）、その他計画段階評価等の調査が進捗している路線等をベースに選定

そのため、災害に強い国土幹線道路ネットワークにおける「５か年加速化対策」に位置付けられた下記の道路分野の対策を中心に、防災・減災、国土強靱化の取り組みを重点的かつ集中的に実施する。

①高規格道路のミッシングリンク解消及び４車線化、高規格道路と直轄国道とのダブルネットワーク化等による道路ネットワークの機能強化対策

近年、激甚化・頻発化する災害から速やかに復旧・復興するためには、道路ネットワークの機能強化が必要不可欠である。発災後概ね１日以内に緊急車両の通行を確保し、概ね１週間以内に一般車両の通行を確保することを目標として、災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能を確保するため、高規格道路のミッシングリンクの解消及び暫定２車線区間の４車線化、高規格道路と代替機能を発揮する直轄国道とのダブルネットワークの強化等を推進する。

②道路施設の老朽化対策

今後、急速に進展する道路施設の老朽化に対し、ライフサイクルコストの低減や持続可能な維持管理を実現する予防保全による道路メンテナンスへ早期に移行するため、定期点検等により確認された修繕が必要な道路施設（橋梁、トンネル、道路附属物、舗装等）の対策を推進する。

③渡河部の橋梁や河川に隣接する道路構造物の流失防止対策

令和２年７月豪雨では、梅雨前線の停滞による記録的な大雨により、河川の氾濫および橋梁の流失、河川隣接区間の道路流失等が発生した。通行止めが長期化する渡河部の橋梁流失や河川隣接区間の道路流失等の災害リスクに対し、橋梁・道路の洗掘・流失対策や橋梁の架け替え等を推進する。

④道路の高架区間等を活用した津波や洪水からの浸水避難対策

切迫している南海トラフ地震や激甚化する豪雨災害などに備え、津波や洪水からの緊急避難場所を確保するため、地方公共団体のニーズを踏まえ、予測浸水深よりも高い位置に整備されている直轄国道の高架区間等を緊急避難場所として活用するための避難施設（避難階段等）の整備を推進する。

⑤道路の法面・盛土の土砂災害防止対策

令和２年７月豪雨をはじめとする近年の豪雨では、道路区域内だけでなく道路区域外からも土砂崩落が発生し、高速道路及び直轄国道等の幹線道路に長時間にわたる通行止めが生じるなど道路交通に支障を及ぼす事態が発生した。道路の法面や盛土において、レーザープロファイラ調査等の高度化された点検手法等により新たに把握された災害リスク等に対し、豪雨による土砂災害等の発生を防止するため、法面・盛土対策を推進する。

⑥市街地等の緊急輸送道路における無電柱化対策

令和元年房総半島台風では、既往最大風速を更新する局地的な強風等により約 2,000 本の電柱が倒壊し、道路閉塞に伴う通行止め等により復旧活動に支障が生じた。電柱倒壊による道路閉塞のリスクがある市街地等の緊急輸送道路において、道路閉塞等の被害を防止するため無電柱化を推進する。

⑦IT を活用した道路管理体制の強化対策

災害発生時や復旧段階において、道路状況を速やかに把握した上で円滑な交通を確保することは、人命救助、復旧・復興、社会経済活動において必要不可欠である。遠隔からの道路の異常の早期発見、維持管理作業等の自動化・無人化、過積載等の違反車両の取り締まりを行う体制の強化や AI 技術等の活用による立ち往生車両の自動検知システムの導入など、維持管理の効率化・省力化を推進する。

３．対策実施箇所

① 災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能強化対策　【別添１】
② 道路施設の老朽化対策　【別添２】
③ 渡河部の橋梁や河川に隣接する道路構造物の流失防止対策　【別添３】
④ 道路の高架区間等を活用した津波や洪水からの浸水避難対策　【別添４】
⑤ 道路の法面・盛土の土砂災害防止対策　【別添５】
⑥ 市街地等の緊急輸送道路における無電柱化対策　【別添６】
⑦ IT を活用した道路管理体制の強化対策　【別添７】

上記「別添１～７」については東北地方整備局 HP よりご確認頂けます
https://www.thr.mlit.go.jp/road/program.html

４．その他

「５か年加速化対策」において示された事業規模は、今後の災害の発生状況や事業の進捗状況、経済情勢・財政事情等を踏まえ、機動的・弾力的に変動するものであり、本プログラムにおける事業進捗等もそれに応じて変わり得るものである。

また、本プログラムの事業進捗等については、必要に応じて、見直しを行うものとする。

以上

東北地方整備局の道路事業の開通見通し

別紙2

新たな開通見通し公表箇所
（東根～尾花沢は開通時期の見直し）

東北中央自動車道 東根（ひがしね）～尾花沢（おばなざわ）
（仮称）村山北（むらやまきた）IC～大石田村山（おおいしだむらやま）IC（4.5km）
令和4年内⇒令和3年度
（開通時期見直し）

国道4号 仙台（せんだい）拡幅
（仙台市若林区卸町（せんだいしわかばやしおろしまち）～宮城野区苦竹（みやぎのくにがたけ））（1.4km）
令和6年度（新規公表）

東北地方整備局の道路事業の開通見通し（1／2）

★：今回開通見通しを公表した事業

■青森県

開通予定	県名	号線	事業名	区間	延長
令和4年内	青森	45	天間林道路	七戸IC～（仮称）天間林（2）IC	8.3km

■岩手県

開通予定	県名	号線	事業名	区間	延長
令和5年度※4	岩手	4	北上拡幅	北上市相去町字笹長根～北上市相去町平林	3.0km
令和7年度※4	岩手	4	水沢東バイパス	奥州市水沢真城字東大深沢～奥州市水沢姉体町	2.7km
令和7年度※5	岩手	46	盛岡西バイパス	盛岡市本宮字泉屋敷～盛岡市上厨川字前潟	3.6km

■宮城県

開通予定	県名	号線	事業名	区間	延長
令和6年度★	宮城	4	仙台拡幅	仙台市若林区卸町～仙台市宮城野区苦竹	1.4km
令和7年度※4	宮城	108	古川東バイパス	大崎市古川宮内～大崎市古川稲葉	1.6km

■秋田県

開通予定	県名	号線	事業名	区間	延長
令和5年度※1	秋田	7	二ツ井今泉道路	（仮称）小繋IC～（仮称）今泉IC	4.5km
令和6年度※4	秋田	13	河辺拡幅	秋田市河辺和田字坂本北～秋田市河辺和田字和田	1.4km
令和7年度※2	秋田	7	遊佐象潟道路	（仮称）小砂川IC～象潟IC	7.3km
令和7年度※1※2	秋田	13	横堀道路	（仮称）下院内IC～雄勝こまちIC	3.7km
令和8年度※2※3	秋田 山形	7	遊佐象潟道路	遊佐鳥海IC～（仮称）小砂川IC	10.6km

※1：トンネル工事が順調に進んだ場合

※2：用地買収、埋蔵文化財調査が順調に進んだ場合

※3：軟弱地盤対策工事や大規模橋梁工事等が順調に進んだ場合

※4：用地買収が順調に進んだ場合

※5：大規模橋梁工事が順調に進んだ場合

東北地方整備局の道路事業の開通見通し（2／2）

★：今回開通見通しを公表した事業

■山形県

開通予定	県名	号線	事業名	区間	延長
令和4年内 ⇒令和3年度★	山形	東北中央自動車道	東北中央自動車道 （東根～尾花沢）	（仮称）村山北IC～大石田村山IC	4.5km
令和4年内	山形	東北中央自動車道	東北中央自動車道 （東根～尾花沢）	東根北IC～（仮称）村山北IC	8.9km
令和4年度	山形	13	泉田道路	（仮称）新庄北IC～（仮称）昭和IC	8.2km
令和4年度	山形	47	新庄古口道路	新庄市大字升形～戸沢村大字津谷	6.0km
令和5年度	山形	日本海沿岸東北自動車道	日本海沿岸東北自動車道 （酒田みなと～遊佐）	遊佐比子IC～遊佐鳥海IC	6.5km
令和5年度	山形	113	梨郷道路	長井市大字今泉～南陽市大字竹原	7.2km
令和6年度※1	山形	47	高屋道路	戸沢村古口	3.4km
令和7年度※1※4	山形	13	新庄金山道路	（仮称）昭和IC～（仮称）金山IC	5.8km
令和8年度※2※3	秋田 山形	7	遊佐象潟道路	遊佐鳥海IC～（仮称）小砂川IC	10.6km

■福島県

開通予定	県名	号線	事業名	区間	延長
令和3年度	福島	4	鏡石拡幅	鏡石町久来石～鏡石町中央	2.2km
令和5年度	福島	4	伊達拡幅	国見町大字藤田～国見町大字石母田	1.6km
令和7年度※1	福島	121	湯野上バイパス	下郷町大字高陟～下郷町大字塩生	8.3km
令和8年度※1※4	福島	13	福島西道路（Ⅱ期）	福島市松川町浅川～福島市大森	6.3km

※1：トンネル工事が順調に進んだ場合

※2：用地買収、埋蔵文化財調査が順調に進んだ場合

※3：軟弱地盤対策工事や大規模橋梁工事等が順調に進んだ場合

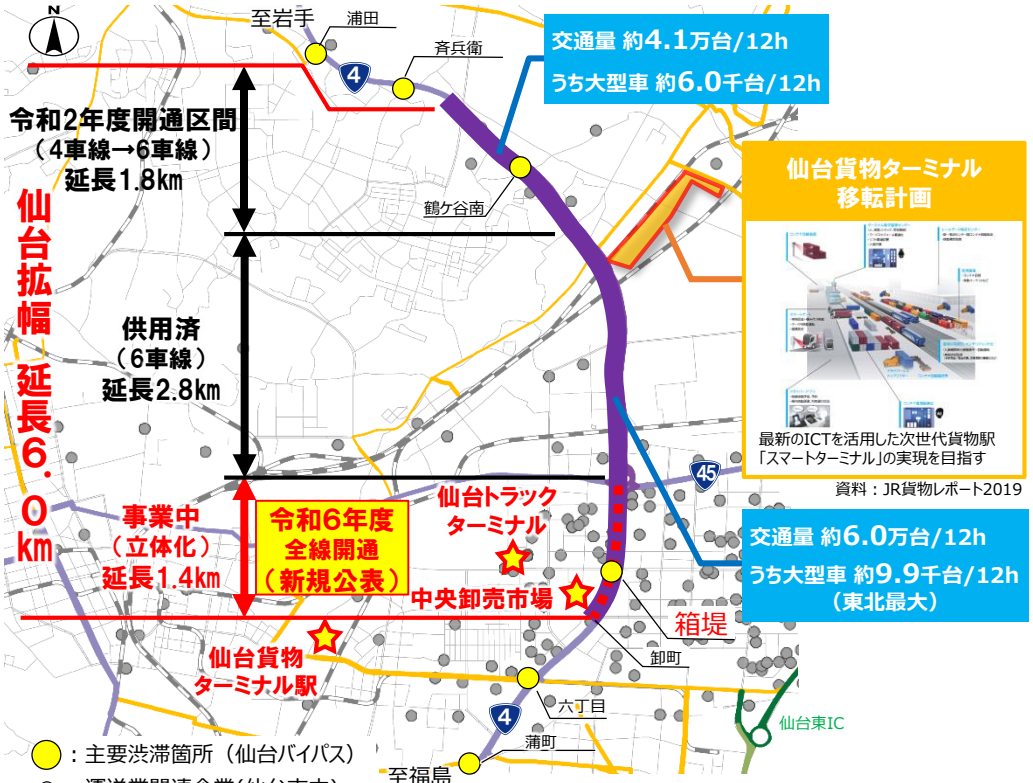
※4：用地買収が順調に進んだ場合

［仙台拡幅］仙台都市圏の物流円滑化を支援

国土交通省

○ 国道4号仙台バイパスは、東北最大級の仙台市中央卸売市場や仙台トラックターミナルなど物流拠点が周辺に立地するなど、交通需要が集中。さらに、今後、仙台貨物ターミナル駅の移転が計画されている。
○ 箱堤交差点の立体化により、当該交差点を先頭とする渋滞の緩和が見込まれ、物流の円滑化を支援。

［国道４号仙台バイパス周辺における物流関係企業の集積状況］



資料： H27全国道路･街路交通情勢調査、 iタウンページ(R1.5時点)

卸売関係者の声

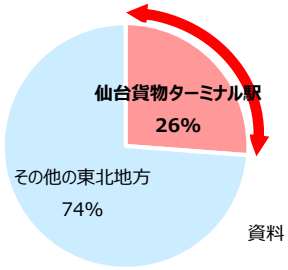
生鮮食品は、取引先より納品時刻厳守と言われているため、定時性が必要。
仙台中央青果卸売協同組合ヒアリング調査結果（H30.10）

鉄道貨物輸送関係者の声

東部道路のインターまで国道4号を利用するので、拡幅や立体化により、混雑緩和を期待。
通運事業者ヒアリング調査結果（R2.9）

仙台貨物ターミナル駅

･･･ 仙台都市圏発着鉄道貨物の積卸しを行う。主な輸送品目は、印刷紙、民間流通米、ビール･飲料水等。

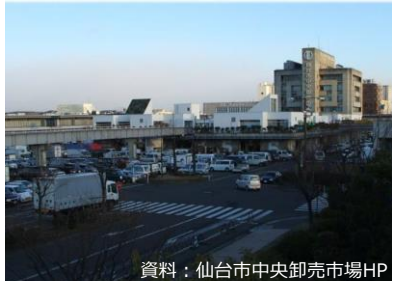


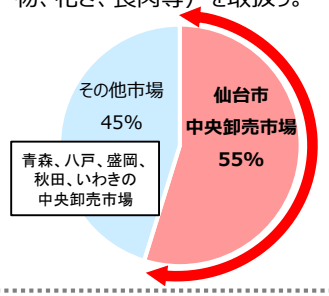
東北地方の
約3割の
取扱量シェア

資料：仙台市環境影響評価資料、
運輸要覧（東北運輸局）より算定

仙台市中央卸売市場

･･･東北の食の拠点として、生鮮食料品等（水産物、野菜、果物、花き、食肉等）を取扱う。


資料：仙台市中央卸売市場HP



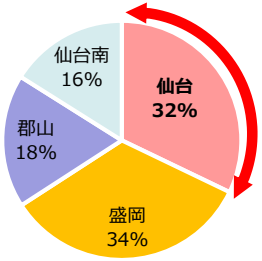
東北地方の
5 割以上の
取扱金額シェア

資料：
卸売市場データ集（農林水産省）

仙台トラックターミナル

･･･流通加工･一時保管の役割と機能を持った配送センターを有し、総合物流基地として機能。

資料（株)仙台トラックターミナルHP



東北地方の
約 3 割の
トラックバース数シェア

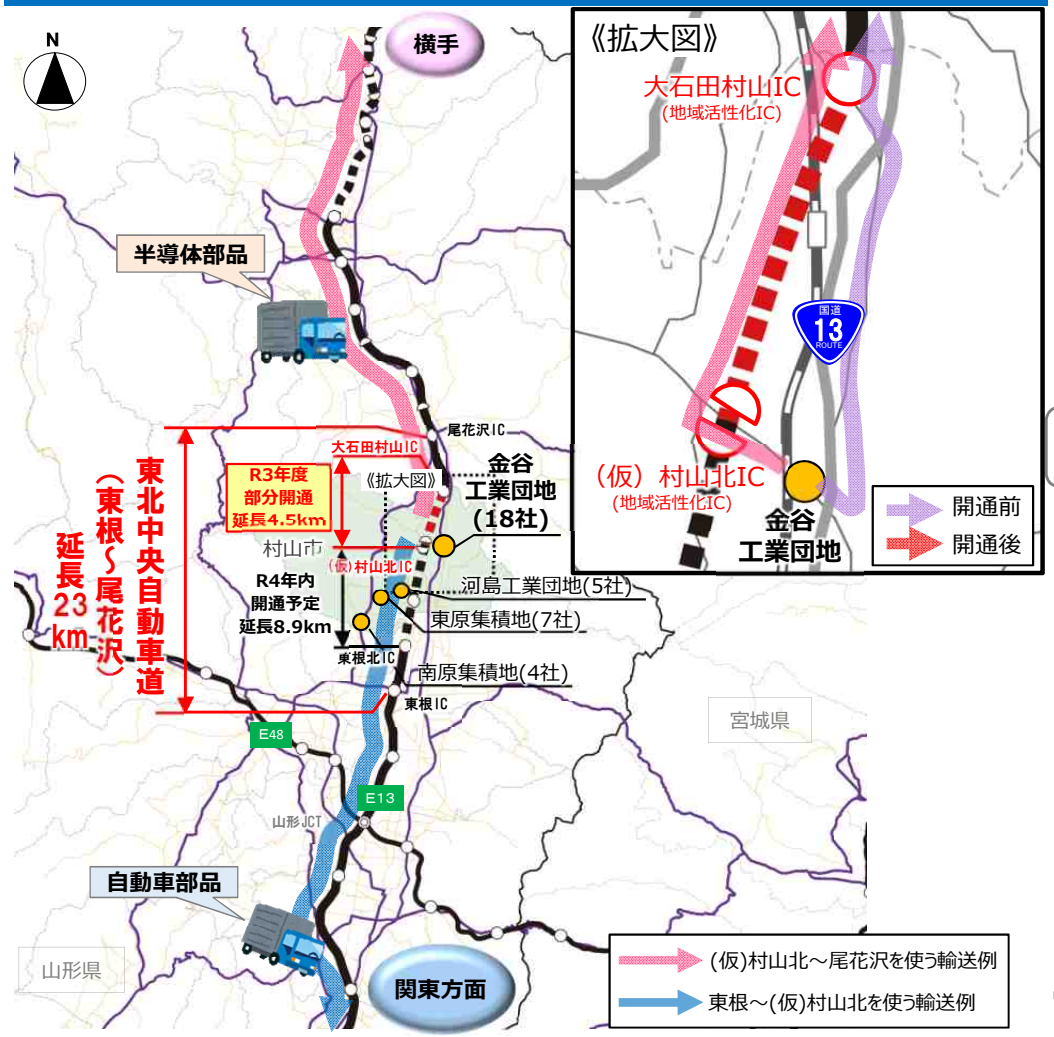
資料：
国土交通省 第３回総合物流施策大綱に関する有識者検討会

［東北中央自動車道 東根～尾花沢］地域産業の活性化を支援

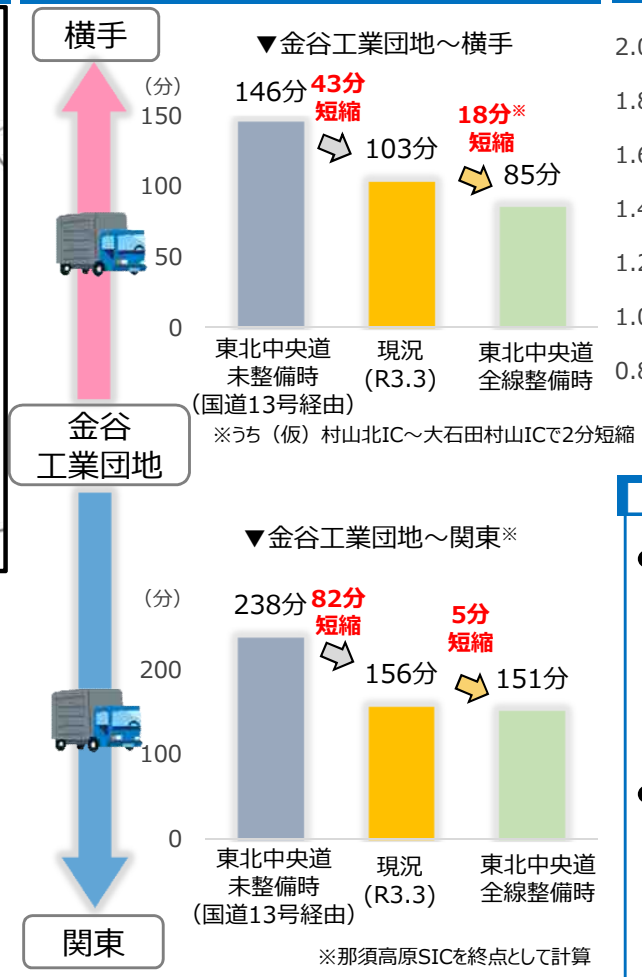
国土交通省

○ 村山市最大規模の工業団地である金谷工業団地には、東北中央道の利便性を活かし、秋田県や関東など、広域的な取引を行う企業が立地。
○ 東北中央道の整備と合わせ、村山市の製造品出荷額はH21からH30の9年間で約1.7倍に増加しており、全国・県平均を大きく上回る伸び。
○ （仮称）村山北ＩＣ～大石田村山ＩＣを含めた東北中央自動車道（東根～尾花沢）の整備により、移動時間の短縮等による取引範囲の拡大や、利便性向上が期待され、さらなる地域産業の活性化を支援。

■東北中央自動車道を利用した金谷工業団地立地企業の輸送例

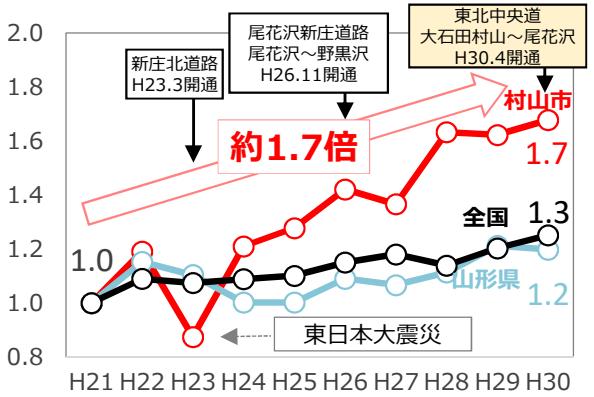


■金谷工業団地からの輸送時間推移



出典： H27道路交通センサス混雑時平均旅行速度（上下平均）より算出
H28年度以降開通区間、未開通区間は規制速度より算出

■村山市の製造品出荷額の推移



出典：工業統計調査（H21を1.0とした比率）

■金谷工業団地立地企業の声

●当該区間が開通すれば、秋田県への営業が便利になる。東北中央道整備に伴い、今まで泊りでしか行けなかった営業先に日帰りで行けるようになったり、営業回り先が増えたりと、営業をしやすくなっている。実際に営業範囲は広がっている。

●関東の市場は、到着時刻が細かく指定されており、時間の制限が厳しい。全線開通すれば、所要時間の短縮や製品積み込み時間に余裕が生まれるなど、関東方面への出荷が非常に便利になる。

金谷工業団地立地企業(R3.3)